

言語聴覚学科 (Speech-Language-Hearing therapy)

ディプロマ・ポリシー (卒業までに身につけるべき能力)

- ①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことのできる人材を育成する。
- ②言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を育てる。
- ③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる人材を育成する。
- ④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力し合える人材を育成する。

	講義	実習
2 学 年	到達 目標	①対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ②自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。 ③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる。
	専門基礎分野: [心理学] 心理測定法 [社会福祉教育] 社会保障制度・関係法規 [専門基礎分野特論] I 基礎医学/II 臨床医学/III 音声言語聴覚医学/IV 心理学 V 言語学/VI 音声学/VII 音響学/VIII 社会福祉・教育 専門分野: [失語・高次脳機能障害学] IV 訓練/V ケーススタディー [言語発達障害学] VIII ケーススタディー [発声発語・嚥下障害学] IV 成人系発語障害/VI 摂食嚥下障害/VII 音声障害 VIII 流暢性障害/IX ケーススタディー [聴覚障害学] IV 小児聴覚障害/V 補聴器・人工内耳/VI 視覚聴覚二重障害 [専門分野特論] I 言語聴覚障害学総論/II 失語症学/III 高次脳機能障害学 IV 言語発達障害学/V 発声発語障害学/VI 摂食嚥下障害学 VII 聴覚障害学	臨床実習Ⅱ【12週間】 実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学びます。
1 学 年	到達 目標	①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を身につける。 ②自己の問題点を客観的に認識できる。 ③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害について理解する。
	専門基礎分野: [基礎医学] 医学総論/生理学/病理学/解剖学 [臨床医学] 耳鼻咽喉科学/内科学/小児科学/形成外科学/臨床神経学 精神医学/リハビリテーション医学/臨床歯科学/口腔外科学 [音声・言語・聴覚医学] 呼吸発声発語系/聴覚系/神経系 [心理学] 認知・学習心理学/生涯発達心理学/臨床心理学/心理統計法 [音声・言語学] 言語発達学/言語学/音声学/音響学/聴覚心理学 [社会福祉教育] リハビリテーション概論 (PT・OT 概論含む) 専門分野: [言語聴覚障害学総論] 言語聴覚障害学概論/言語聴覚診断学 コミュニケーション技能演習 コミュニケーション障害演習/言語聴覚障害学演習 [失語・高次脳機能障害学] I 概論/II 失語・高次脳機能障害/III 評価 [言語発達障害学] I 概論/II 自閉症スペクトラム障害/III 知的発達障害 IV 限局性学習障害/V 脳性麻痺・小児嚥下/VI 検査・評価 VII ケーススタディー [発声発語・嚥下障害学] I 概論/II 小児系発語障害/III 成人系発語障害 V 摂食嚥下障害 [聴覚障害学] I 概論/II 成人聴覚障害/III 小児聴覚障害	【コミュニケーション技能演習実習 /5日間】 医療・福祉施設での介護や、リハビリテーション場面の見学などを行い、対象者との接し方を学びます。 【コミュニケーション障害演習実習 /5日間】 言語聴覚士の業務の実際を学びます。 【臨床実習Ⅰ/15日間】 対象者の全体像ならびに生活機能と障害のとらえ方を学びます。(対象者に対して言語聴覚療法評価を行い、生活機能と障害を整理し治療目標を立案)